

地球の歩き方総合研究所について

地球の歩き方総合研究所は、2017年に、事業を通じて日本及び世界の観光業の発展に寄与することを目的として設立しました。シンクタンク機能として調査や研究の実施や広報活動、業界を牽引する研究員との国・行政案件の獲得、新たな旅の啓蒙につながる事業展開、他団体・企業との連携などにも取り組んでいます。日本を取り巻くインバウンド市場や、国際交流を通して、地域の活性化に貢献できる活動を目指しています。



地球の歩き方総研 事務局長
弓削 貴久

欧米ラグジュアリー層向け高付加価値コンテンツの開発、AT市場やレスポンスブルーツーリズムなどの分野で活躍。欧米富裕層向けにコンテンツの開発や販売する仕組みづくりなど多数の実績を有する。

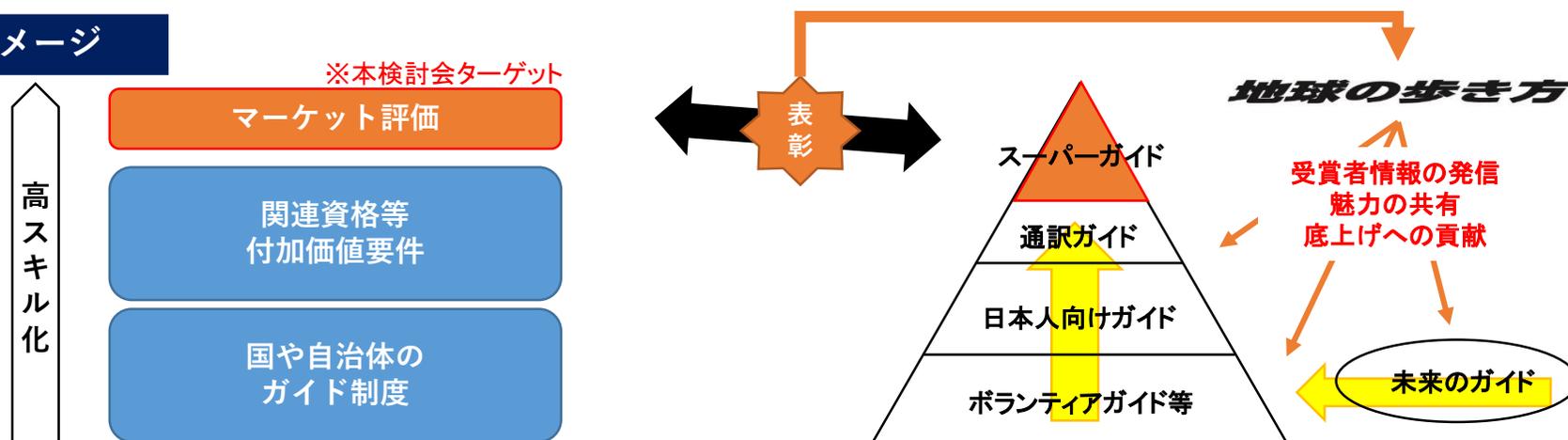
主な役職

- ・JSTO (ジャパンショッピングツーリズム) 監事
- ・JIMC (ジャパンインバウンドメディアコンソーシアム) 理事長

有識者を交えた検討会の実施 (4回)

欧米ラグジュアリー層向け高付加価値コンテンツの開発を通じて、旅行者ニーズの高度化と多様化に対応できる良質なガイド不足の現状に直面。受け入れ体制整備として、地域でのガイド研修なども実施してきました。活動を進める中で、質・量の両面からガイド業界を底上げするためには、ガイドにスポットライトを当て、その活躍や観光産業における貢献を広く周知する必要があると考え、検討会を実施。業界関係者・有識者の方々をお招きして課題解決の検討を重ねてきました。

本検討会取組イメージ



検討会概要

開催の狙い

欧米豪のラグジュアリーとアドベンチャートラベルガイドを対象を絞り、マーケット評価を軸とした基準を設計し、その基準に値するガイドを表彰する仕組みを構築する。これによりガイドの活躍、観光産業における貢献度、魅力ある職業としての価値について認知の向上を目指し、今後のインバウンド市場拡大への対応に貢献する。

主催

本事業は、地球の歩き方総合研究所が行う。旅の情報発信メディアとして1979年発刊以来、圧倒的な認知度を誇る『地球の歩き方』の関連組織だからこそそのアウトプットを目指す。

検討会での策定事項

- ・対象分野のスーパーガイドがマーケットから評価される基準の設計
- ・その基準に則った審査・表彰方法の確立
- ・表彰されたスーパーガイドの広報の方法

構成メンバー

- ・観光庁 観光産業課
 - ・矢ヶ崎 紀子 東京女子大学 現代教養学部 教授
 - ・寺崎 竜雄 公益財団法人日本交通公社 常務理事
 - ・ポール・クリスティ Walk Japan 社長
 - ・八田 誠 一般社団法人金沢市観光協会 専務理事
 - ・鈴木 宏一郎 北海道宝島旅行社 社長
 - ・弓削 貴久 地球の歩き方総合研究所 事務局長
- (敬称略)

<最終目標>

- ・スーパーガイドを表彰し、当社メディアを活用して、各方面へ情報発信を行う。
- ・ガイドの活躍や観光産業における貢献を広く周知し、ガイドが憧れの職業となり、わが国にガイド文化が根付く土台づくりを目指す。

全4回の検討会で枠組み及び審査方法を確立し、スーパーガイドの表彰を目指す。

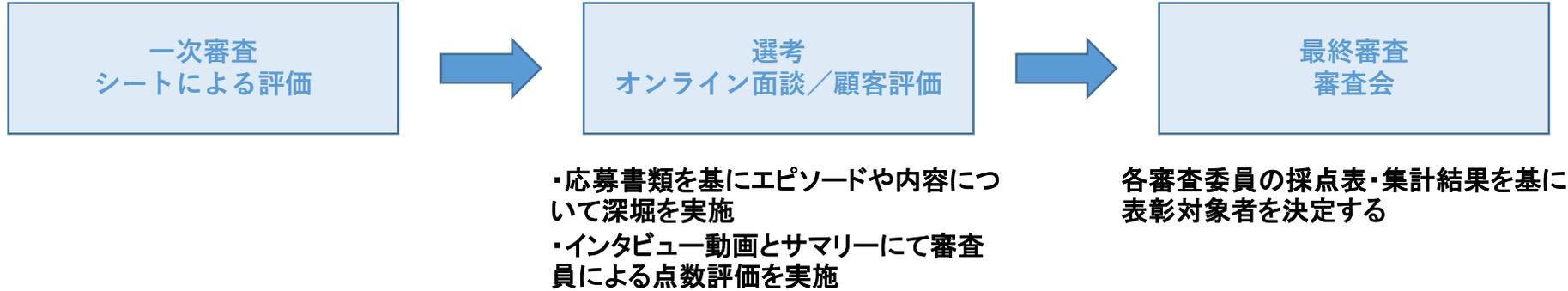
検討会での議題

- ・対象分野のスーパーガイドがマーケットから評価される基準の設計
- ・その基準に則った審査・表彰方法の確立
- ・表彰されたスーパーガイドの広報の方法

	調査事項および議論内容
第1回 現状分析	<ul style="list-style-type: none">・現状把握（スーパーガイドの実態、資質、要因分析）・ガイドで生計を立てるまでなるにはどうしたら良いか、仕事としての魅力・現状のガイド育成環境で壁になっている部分の明確化
第2回 海外事例分析、モデルガイド像の設定	<ul style="list-style-type: none">・海外のガイド表彰制度について・表彰対象のガイドの定義（モデルガイド像を設定）
第3回 審査基準・方法	<ul style="list-style-type: none">・審査基準、審査方法、候補者の集め方について・国内の他表彰制度の事例研究など
第4回 アクションプラン	<ul style="list-style-type: none">・アクションプランの決定・サンプルを使った模擬審査の実施など (検討会メンバーで仮応募者の審査シミュレーションを行う)・表彰されたスーパーガイドの広報の方法

審査方法

一次をエントリーシートによる評価とし、全3回で表彰対象を決定する



- ・応募書類を基にエピソードや内容について深堀を実施
- ・インタビュー動画とサマリーにて審査員による点数評価を実施

各審査委員の採点表・集計結果を基に表彰対象者を決定する

評価のポイント

全選考過程での評価ポイントは以下
ガイドの本質項目

- ・ストーリーテリング力(演出力)
- ・トランスフォーメーション力(変化させる力)
- ・インタープリテーション力(伝える力)

コミュニケーション項目

- ・顧客との関係づくり力

リスクマネジメント項目

- ・問題解決力
- ・柔軟な対応力

Schedule

- 2023年11月: 募集開始
- ・2024年2月: 募集終了
- ・2024年2月: 書類審査
- ・2024年3月: オンライン面談(二次審査)
- ・2024年4月: 審査員による審査会
- ・2024年5月14日: 審査結果発表

インバウンドガイドを表彰する Guide of the Year の設立

▼ 2024/5/14 Guide of the year 授賞式

「Guide of the Year2024」3名
特別賞「Special Award」4名
審査員特別賞「Jury's Award」1名、
合計8名の方が受賞

受賞者



Guide of the year

工藤まやさん

高校1年の夏、親の転勤に伴い米国へ。現地高校を卒業後、帰国し上智大学入学。卒業後クリスチャンディオール入社、富裕層ビジネスに触れる。2005年度全国通訳案内士試験合格。2006年7月より英語ガイドとして本格的に活動。趣味は学生時代から茶道、ガイドになってから日本刀鑑賞、居合、仕舞を嗜む。無類の旅行好きで世界60カ国以上を訪問。王族からセレブリティまで各国富裕層の案内経験が豊富

白石実果さん

世界中からのVIPゲストを含むインバウンドゲストを延べ2,500名以上アテンド。質の高い体験を求める高付加価値ゲストからの評価も高い。日本各地のガイドトレーニング研修講師のほか、インバウンド受け入れ体制作りのアドバイザーとしても活動。現場でゲストと共に過ごすからこそ得られる「訪日外国人の本音」を届け、日本のインバウンド受け入れ体制を支援している。観光庁広域周遊専門家派遣事業専門人材。

馬上千恵さん

北海道アドベンチャートラベルガイド（スルーガイド）・全国通訳案内士・森林インストラクターなど。帯広畜産大学卒業後、北海道森林管理局に8年間勤務。オーストラリアで英語教授法を学び英語講師となり、2008年より全国通訳案内士として、斜里町などの知床半島、稚内市、厚沢部町などに住んで英語の自然ガイドやインバウンド向けツアー企画など行う。2020年から札幌市拠点。全国のガイド養成講座や英語接客セミナーなどで講師も務めている。英検1級／TESOL（英語教授法）／WAFAdアダンスレベル／LNTレベル1インストラクター

Special Award

青崎 涼子さん
原田 勉さん
福田 誠さん
安井 久美さん

Jury's Award

ジョー岡田さん

メディア掲載:日経新聞、毎日新聞、
観光経済新聞他43誌

TBS 「ふるさとの未来」
7/24 深夜0:58～
放送

ポストコロナのインバウンド市場では、富裕層対応やアドベンチャーツーリズムのような持続可能な旅が求められているため、日本のガイド環境も質向上に取り組む必要がありますが、質・数とも、まだ潤沢ではないことを確認しました。

ガイド3団体にヒアリングを実施。登録メンバーの中でトップ中のトップガイドは、いずれも全体の1～2%だった。この回答を元に、通訳案内士の登録者で実際に稼働しているトップガイドは百名規模と推定した。また、改正前後の資格取得者・訪日外国人数の推移からもガイドが急速に求められていることを確認した。
※2022年実施

通訳案内士の登録者数 26,723名（2022年4月1日現在）

実際に稼働をしている方が6割程度(16,033名)とした場合、

- ・生計を立てられている人：2,405名 ※稼働している6割の内、15%と仮定
- ・スーパーガイド：160名 ※稼働している6割の内、1%と仮定

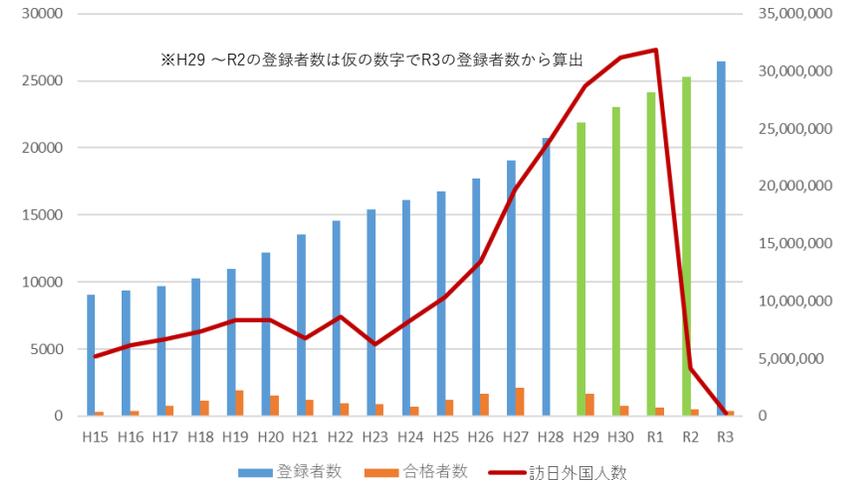
実際に稼働をしている方が約4割（10,689名）

資格を活かしている

- ・全国通訳案内士：約4割 39.4%（専業：14.4%、兼業：25.0%）
- ・地域通訳案内士：約5割 46.1%（専業：6.8%、兼業：39.3%）

- ・生計を立てられている人：1,603名
- ・スーパーガイド：106名

通訳案内士登録者数と訪日外国人数推移



Guide of the Yearは、ガイド市場の全体の底上げを目指し、質と量に貢献していきます。表彰は毎年開催し、受賞者と連携した事業の開発や、応募自体にも何らかのメリットを得られる仕組みをつくり、応募したくなる表彰にしていきます。

課題解決に向けた施策案

最終目標

- ・ガイドを表彰し、当社メディアを活用して広く情報発信する。ガイドの活躍や観光産業への貢献を広く周知する。
- ・日本が誇るガイドにスポットを当て、ガイドが憧れの職業となり、日本にガイド文化が根付く土台づくりを目指す。

- ① ガイドの担い手を増やす施策
 - ・全国通訳案内士試験の大幅改定
 - ・セカンドキャリア組のガイド教育や機会の提供
- ② 新人～3年目ガイド育成の充実
実践的な研修が重要
- ③ ガイドの地位向上 ガイド教育の実施
- ④ モデルガイドの確立
- ⑤ Guide of the year 表彰を国や地域、民間と連携し、活用。
ガイドが憧れる職業になるための連携

地球の歩き方

Guide of the Yearは、資格の付与やランク付けのようなことはしない。

情報発信を通じてその活躍を広く伝えることに加えて、全体底上げを目指した知見の共有や学びの機会を生み出していく。

具体的には、受賞者と連携したガイド研修の実施や、シンポジウムによる受賞者間のシナジー創出・応募メリットの提供など。

